

添加剤を入れずに運転した場合の基礎データを出した後、添加剤を加えた場合のデータを採取しました。この結果からハロゲン酸は、分解した塩素の大半が樹脂内に留まるのではなく、樹脂や装置の外で捕捉・中和していることが証明されました。

試験の場所：神奈川県産業技術センターにて実証試験

樹脂：1) ポリエチレン樹脂 98% (574.3g)

押出機装置：ラボマイクロー 小型2軸セグメント押出機 (株式会社東洋製作所)

\* ホッパーからシリンダー内に入った樹脂は、約10分程度でペレット化されます。

ヒーター設定温度：① 220℃(入り口) ② 240℃ ③ 260℃ ④ 260℃ ⑤ 240℃ ⑥ 230℃(出口)

イオンクロマトグラフ：東ソー株式会社製 IC2001

2) ポリ塩化ビニル 2% (25.7g) (塩素含有量1%)

* 塩素含有量 1%	ペレットの塩素含有量	分解した塩化水素	所見
添加剤なし	0.59 %	装置の外に排出し、樹脂にはほとんど残らないが、表面には付着	ペレットの表面は酸性を示し、蒸気排出口のガスも酸性を示した。
ハロゲン酸 0.5%(3g)	0.60 %	装置の外に排出し、樹脂にはほとんど残らない	ペレットの表面は中性を示し、蒸気排出口のガスはアルカリ性を示した。
ハロゲン酸 1.0%(6g)	0.63 %	装置の外に排出し、樹脂にはほとんど残らない	ペレットの表面は中性を示し、蒸気排出口のガスはアルカリ性を示した。
ハロゲン酸 1.5%(9g)	0.62 %	装置の外に排出し、樹脂にはほとんど残らない	ペレットの表面はアルカリ性を示し、蒸気排出口のガスもアルカリ性を示した。
水酸化マグネシウム 2%(12g)	0.81 %	分解と同時にマグネシウムと反応し、塩化マグネシウムとして樹脂に残留する	ペレットの表面はやや酸性を示し、蒸気排出口のガスは酸性を示した。
水酸化カルシウム 2%(12g)	0.79 %	分解と同時にマグネシウムと反応し、塩化マグネシウムとして樹脂に残留する	ペレットの表面はやや酸性を示し、蒸気排出口のガスは酸性を示した。

**ご注意：本データは実験装置で行なったものです。実際のデータは、現在ご使用の装置でご確認を頂くようお願いいたします。**

\* 添加剤の添加量は、1バッチに使用する樹脂総量600gに対しての比率です。